文学研究科

日本史学専攻

科目名	学位論文(日本史学)	前期～後期	0 単位
サブタイトル			
担当者	関 周一		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 修士論文を完成する。</p> <p>[授業概要] 修士論文完成に向けて、アドバイスをを行う。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 修士論文の執筆段階に応じて、問題点を整理し、解決法を模索する。</p> <p>[授業計画] 史料の収集・読解や、修士論文の執筆段階に応じて、アドバイスをを行う。</p> <p>[成績評価方法] 修士論文の評価でもって決定する。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

科目名	学位論文(日本史学)	前期～後期	0 単位
サブタイトル	学位論文の作成		
担当者	齋藤 瑞穂		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 優れた修士論文を作成する。</p> <p>[授業概要] 修士論文の完成に向けて指導する。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 研究史の整理、データの整理、主張したい内容の整理等。</p> <p>[授業計画] 毎回、学位論文の進捗状況を報告する。</p> <p>[成績評価方法] 学位論文の内容と口述試問の内容を総合的に判断して評価する。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

科目名	西洋史学演習a	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	吉村 真美		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 近年西洋近代史研究において焦点となっている諸問題について理解し、自身の視点から考察する。</p> <p>[授業概要] イギリスを中心とする西洋近代史に関する和文および英文の専門書や論文、同時代史料を輪読する。その後受講生は扱ったテーマからひとつを選択して、自身の問題関心や視点からの研究発表を行う。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 各回、予習復習合わせて2 時間程度。事前に配布した英文史料は予習し、授業時に英和辞典を持参すること。(初回授業時には不要)</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 西洋近代史の諸問題(講義) 2. 文献についての解説 3. 文献の輪読(1) 4. 文献の輪読(2) 5. 文献の輪読(3) 6. 文献の輪読(4) 7. 文献の輪読(5) 8. 文献の輪読(6) 9. 文献の輪読(7) 10. 文献の輪読(8) 11. 研究発表(1) 12. 研究発表(2) 13. まとめ <p>[成績評価方法] 英文史料読解の評価(50%)、発表1回(50%)</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

科目名	西洋史学演習b	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	吉村 真美		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 近年西洋近代史研究において焦点となっている諸問題についての理解をさらに深め、自身の問題関心を世界史的な視野に広げる。</p> <p>[授業概要] イギリスを中心とする西洋近代史に関する和文および英文の専門書や論文を、同時代史料もあわせて輪読する。その後、それぞれが選択したテーマについて、受講生は自身の視点から研究発表を行う。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 各回、予習復習合わせて2 時間程度。事前に配布した英文史料は予習し、授業時に英和辞典を持参すること。(初回授業時には不要)</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 西洋近代史の諸問題(講義) 2. 文献についての解説 3. 文献の輪読(1) 4. 文献の輪読(2) 5. 文献の輪読(3) 6. 文献の輪読(4) 7. 文献の輪読(5) 8. 文献の輪読(6) 9. 文献の輪読(7) 10. 文献の輪読(8) 11. 研究発表(1) 12. 研究発表(2) 13. まとめ <p>[成績評価方法] 英文史料読解の評価(50%)、発表1回(50%)</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

科目名	西洋史学特殊研究a	前期	2 単位
サブタイトル	イギリス帝国史		
担当者	吉村 真美		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 帝国という視座からのイギリス近代史を多角的に考察・理解する。また英文による教科書および同時代史料を読解する能力を身につける。授業で得た知見をふまえて、日本史学専攻の学生としての視点から日本とイギリス帝国に関係する研究発表を行う。			
[授業概要] イギリス帝国の歴史とその諸問題について、近年の新しい研究動向をふまえつつ多角的に考察する。とりわけ、イギリスのアジア(インド、中国、日本)認識とその変容、および帝国植民地におけるジェンダーとセクシュアリティについて、同時代史料を参照しながら理解を深め、日本史領域における自身の研究課題を新たな方向から検討する。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 各回、予習復習合わせて2時間程度。講読形式の授業ではないがテキストにそって進めるので、毎回必ず指定箇所を事前に予習してくる。授業時に配布する同時代史料や指定するWebサイトについても、同様に予習が必須である。必ず英和辞典を持参のうえ授業に出席すること。			
[授業計画] 1. はじめに イギリス帝国史研究の動向 2. 連合王国の成立 3. 大西洋貿易 4. 「新世界」への入植 5. 北米植民地の独立 6. オセアニア 7. インド 8. 支配と被支配 9. ジェンダーとセクシュアリティ(1) 10. ジェンダーとセクシュアリティ(2) 11. 帝国の拡張 12. 脱植民地化 13. まとめ イギリス帝国史とグローバル・ヒストリー			
[成績評価方法] 毎週の課題(20%)、発表(40%)、発表後のレポート(40%)			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)]			
[参考書(ISBN)]			

科目名	西洋史学特殊研究a	前期	2 単位
サブタイトル	イギリス帝国史		
担当者	吉村 真美		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 帝国という視座からのイギリス近代史を多角的に考察・理解する。また英文による教科書および同時代史料を読解する能力を身につける。授業で得た知見をふまえて、日本史学専攻の学生としての視点から日本とイギリス帝国に関係する研究発表を行う。			
[授業概要] イギリス帝国の歴史とその諸問題について、近年の新しい研究動向をふまえつつ多角的に考察する。とりわけ、イギリスのアジア(インド、中国、日本)認識とその変容、および帝国植民地におけるジェンダーとセクシュアリティについて、同時代史料を参照しながら理解を深め、日本史領域における自身の研究課題を新たな方向から検討する。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 各回、予習復習合わせて2時間程度。講読形式の授業ではないがテキストにそって進めるので、毎回必ず指定箇所を事前に予習してくる。授業時に配布する同時代史料や指定するWebサイトについても、同様に予習が必須である。必ず英和辞典を持参のうえ授業に出席すること。			
[授業計画] 1. はじめに イギリス帝国史研究の動向 2. 連合王国の成立 3. 大西洋貿易 4. 「新世界」への入植 5. 北米植民地の独立 6. オセアニア 7. インド 8. 支配と被支配 9. ジェンダーとセクシュアリティ(1) 10. ジェンダーとセクシュアリティ(2) 11. 帝国の拡張 12. 脱植民地化 13. まとめ イギリス帝国史とグローバル・ヒストリー			
[成績評価方法] 毎週の課題(20%)、発表(40%)、発表後のレポート(40%)			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)]			
[参考書(ISBN)]			

科目名	西洋史学特殊研究b	後期	2 単位
サブタイトル	近代イギリスとマスキュリニティ		
担当者	吉村 真美		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 近代イギリスのマスキュリニティとその変容について、同時代の政治・社会・諸制度との関係をふまえて理解する。また、英文による教科書および同時代史料を読解できる能力を身につける。授業で得た知見をふまえて、日本史学専攻の学生としての視点から日本とイギリス帝国に関係する研究発表を行う。			
[授業概要] 近代イギリス・ジェンダー史の研究動向を概観し、とりわけ近年注目されているマスキュリニティおよびマンリネス(男性性)について、同時代の政治・社会・諸制度との関わりに注目して考察し、日本史領域における自身の関心や研究課題を新たな方向から検討する。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 各回、予習復習合わせて2 時間程度。講読形式の授業ではないが教科書にそって進めるので、毎回必ず指定箇所を事前に予習してくる。授業時に配布する同時代史料についても、同様に予習が必須である。必ず英和辞典を持参のうえ出席すること。			
[授業計画] 1. はじめに 2. マスキュリニティ研究の動向 3. マスキュリニティの歴史 1750-1850(1) 4. マスキュリニティの歴史 1750-1850(2) 5. ヴィクトリア時代のマスキュリニティ(1) 6. ヴィクトリア時代のマスキュリニティ(2) 7. フェミニズムとマスキュリニティ 8. 家族史とマスキュリニティ(1) 9. 家族史とマスキュリニティ(2) 10. 帝国とマスキュリニティ(1) 12. 帝国とマスキュリニティ(2) 13. まとめ			
[成績評価方法] 毎週の課題(20%)、発表(40%)、発表後のレポート(40%)			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)]			
[参考書(ISBN)]			

科目名	東洋史学演習a	前期	2 単位
サブタイトル	東洋史学史		
担当者	鈴木 宏節		

[実務経験のある教員による授業]

[到達目標]

東洋史に関する基礎知識を習得する。研究テーマに対するアプローチ方法の変遷を学び、東洋史に対する問題意識を高める。

[授業概要]

東洋史学の研究史を解説する。特に近代西欧の歴史学、東洋学について検討する。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]

配付資料は必ず予習して不明箇所を把握しておくこと。また、東洋史全般に関わる概説書や一般書、論文を紹介するので、必要なものは授業に前後して目を通す。

[授業計画]

1. 東洋史学と世界史
2. 近代日本における東洋史学の成り立ちと展開(1)
3. 近代日本における東洋史学の成り立ちと展開(2)
4. 近代日本における東洋史学の成り立ちと展開(3)
5. 西欧の近代歴史学(1)歴史学の歩み
6. 西欧の近代歴史学(2)アジア認識の変遷
7. 西欧の東洋学(1)東洋学の誕生
8. 西欧の東洋学(5)東洋学の展開
9. 第二次世界大戦後の東洋史学と世界史
10. 文献の講読と考察(1)東アジアの諸問題
11. 文献の講読と考察(2)西アジアの諸問題
12. 文献の講読と考察(3)南アジアの諸問題
13. 文献の講読と考察(4)北アジアの諸問題

[成績評価方法]

授業への取り組み(60%)＋レポート(40%)

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]

[参考書(ISBN)]

科目名	東洋史学演習b	後期	2 単位
サブタイトル	東洋史学史		
担当者	鈴木 宏節		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 東洋史に関する基礎知識を習得する。研究テーマに対するアプローチ方法の変遷を学び、東洋史に対する問題意識を高める。</p> <p>[授業概要] 東洋史学の研究史を解説する。特に漢文史料、漢籍の編纂について検討する。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 配付資料は必ず予習して不明箇所を把握しておくこと。また、東洋史全般に関わる概説書や一般書、論文を紹介するので、必要なものは授業に前後して目を通す。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 東洋史学と世界史 2. 正史の成り立ち(1) 3. 正史の成り立ち(2) 4. 正史の成り立ち(3) 5. その他の歴史書(1) 6. その他の歴史書(2) 7. 漢籍の形態論(1) 8. 漢籍の形態論(2) 9. 出土史料の展開 10. 文献の講読と考察(1) 11. 文献の講読と考察(2) 12. 文献の講読と考察(3) 13. 文献の講読と考察(4) <p>[成績評価方法] 授業への取り組み(60%) + レポート(40%)</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

科目名	東洋史学特殊研究a	前期	2 単位
サブタイトル	前近代中央ユーラシア・東アジア世界の歴史的展開		
担当者	鈴木 宏節		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 東洋史に関する文献を精読したうえで、原典を検証するという史料批判のプロセスを習得する。それと同時に、研究テーマに対する多様なアプローチ方法を学び、論文執筆のための情報収集能力と分析能力を高める。			
[授業概要] 東洋前近代史が直面している問題とは何か。石見清裕『唐代の国際関係』(世界史リブレット97、山川出版社、2009年)をテキストに研究動向を把握する。また、原典史料を講読する。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 基本文献について説明するので、それらを使い可能な限り予習をしてくる。必要に応じてレジュメを作成し口頭報告してもらうこともある。また、関連文献を紹介するので、検索し研究動向の把握につとめる。			
[授業計画] 1. 中国史の基本構造(1)ユーラシアとアジアの関係 2. 中国史の基本構造(2)東アジアと北アジアの関係 3. 文献講読(1)唐という国を考えるにあたって・唐王朝の成立 4. 文献講読(2)隋唐皇室の系譜・六鎮の乱と北族の南下 5. 文献講読(3)隋末の乱と唐の建国・内陸アジアの遊牧民と隊商民 6. 文献講読(4)長安と外交儀礼・唐の国際秩序理念 7. 文献講読(5)唐代国際関係の変遷・朝貢における財貨交換の構造・海商の時代へ 8. 史料講読(1)編纂史料 9. 史料講読(2)編纂史料 10. 史料講読(3)編纂史料 11. 史料講読(4)出土墓誌 12. 史料講読(5)出土墓誌 13. 史料講読(6)出土墓誌			
[成績評価方法] 授業への取り組み(70%)＋レポート(30%)			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)] 書籍名:『唐代の国際関係』(世界史リブレット97) 著者名:石見清裕 出版社名:山川出版社 ISBN:978-4634349353			
[参考書(ISBN)]			

科目名	東洋史学特殊研究b	後期	2 単位
サブタイトル	東アジアと西アジアの歴史的展開		
担当者	鈴木 宏節		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 東洋史に関する文献や論文を精読し、史料批判のプロセスを習得する。それと同時に、研究テーマに対する多様なアプローチ方法を学び、論文執筆のための情報収集能力と分析能力を高める。			
[授業概要] 近世のアジアが直面した問題とは何だったのだろうか。林佳世子『オスマン帝国の時代』と岸本美緒『東アジアの「近世」』（世界史リブレット19、13、山川出版社、1997年、1998年）をテキストに西アジアと東アジアの近世を理解する。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 現代のアジア情勢を意識しつつ、文献を精読した上で授業に出席すること。必要に応じ、レジュメを作成して解説を求めることがある。			
[授業計画] 1. 文献講読(1)オスマン帝国を生んだ世界 2. 文献講読(2)オスマン帝国史の展開 3. 文献講読(3)軍事制度と徴税システム 4. 文献講読(4)中央官僚制度 5. 文献講読(5)オスマン帝国下の社会 6. 文献講読(6)分権化の時代へ 7. 文献講読(1)近世における大清帝国の意義 8. 文献講読(2)貨幣への欲望－銀 9. 文献講読(3)南と北の花形商品－生糸と人参 10. 文献講読(4)戦争と技術交流－火器 11. 文献講読(5)新しい作物－煙草と甘薯 12. 文献講読(6)東アジアにおける西洋の衝撃 13. まとめ			
[成績評価方法] 授業への取り組み(60%)＋レポート(40%)			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書 (ISBN)] 書籍名:『オスマン帝国の時代』(世界史リブレット19) 著者名:林佳世子 出版社名:山川出版社 ISBN:978-4634341906 書籍名:『東アジアの「近世」』(世界史リブレット13) 著者名:岸本美緒 出版社名:山川出版社 ISBN:978-4634341302			
[参考書 (ISBN)]			

科目名	日本史学演習 I a	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	山内 晋次		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 漢文史料の読解力を高める。</p> <p>[授業概要] 奈良・平安期の諸史料を、輪番で担当者を決めて読み進めていく。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 自身の担当部分以外についても、自分なりに訓読・解釈をほどこして授業に臨む。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 講読1 3. 講読2 4. 講読3 5. 講読4 6. 講読5 7. 講読6 8. 講読7 9. 講読8 10. 講読9 11. 講読10 12. 講読11 13. まとめ <p>[成績評価方法] 報告内容80%、受講態度20%</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

科目名	日本史学演習 I b	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	山内 晋次		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 漢文史料の読解力を高める。</p> <p>[授業概要] 奈良・平安期の諸史料を、輪番で担当者を決めて読み進めていく。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 担当部分以外についても、事前に自分なりの訓読・解釈をほどこして授業に臨む。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 講読(1) 3. 講読(2) 4. 講読(3) 5. 講読(4) 6. 講読(5) 7. 講読(6) 8. 講読(7) 9. 講読(8) 10. 講読(9) 11. 講読(10) 12. 講読(11) 13. まとめ <p>[成績評価方法] 報告内容80%、受講態度20%</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

科目名	日本史学演習Ⅱa	前期	2単位
サブタイトル	中世史料の講読		
担当者	関 周一		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 中世の漢文史料の読解力を高める。</p> <p>[授業概要] 受講生の関心を考慮して選んだ『言継卿記』を、前年度に引き続き、読み進めていく。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 自身の担当部分以外についても、自分なりに訓読・解釈をほどこした上で、授業に臨む。</p> <p>[授業計画] 1. ガイダンス 2. 史料講読(1) 3. 史料講読(2) 4. 史料講読(3) 5. 史料講読(4) 6. 史料講読(5) 7. 史料講読(6) 8. 史料講読(7) 9. 史料講読(8) 10. 史料講読(9) 11. 史料講読(10) 12. 史料講読(11) 13. まとめ</p> <p>[成績評価方法] 報告内容80%、討論への参加20%</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

科目名	日本史学演習Ⅲa	前期	2 単位
サブタイトル	近世古文書の解読と整理		
担当者	尾崎 真理		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 以下の4点を到達目標とする。①やや難度の高い近世古文書を解読することができる、②最新の史料学をふまえ、未整理の近世古文書群を整理することができる、③近世・近代古文書の現地調査ができる、④歴史学研究における史料の位置づけについて理解できる。			
[授業概要] 前半は近世古文書の写真版を毎回読む。後半は、最新の史料学をふまえ、本学所蔵の近世古文書の整理を行う。その作業を通して、高度の近世古文書解読能力と近世古文書整理能力を養う。また、古文書現地調査(時期は未定)を通して、近世・近代古文書の現地調査能力を養う。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 前半においては、毎回十分な時間をかけてテキスト解読の予習を行うこと。後半の毎回の古文書整理においては、当然読むことのできないくずし字に遭遇するが、その場合、当該古文書の写真を撮影し、次回の演習までに読めるようにしておくこと。			
[授業計画] 1. 授業の進め方 2. 近世古文書の読解1 3. 近世古文書の読解2 4. 近世古文書の読解3 5. 近世古文書の読解4 6. 近世古文書の読解5 7. 近世古文書の読解6 8. 未整理近世古文書の整理1 9. 未整理近世古文書の整理2 10. 未整理近世古文書の整理3 11. 未整理近世古文書の整理4 12. 未整理近世古文書の整理5 13. 未整理近世古文書の整理6			
[成績評価方法] 演習中に判断される古文書読解整理能力20%、期末試験80%			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書 (ISBN)]			
[参考書 (ISBN)]			

科目名	日本史学演習Ⅱb	後期	2単位
サブタイトル	中世史料の講読		
担当者	関 周一		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 中世の漢文史料の読解力を高める。</p> <p>[授業概要] 受講生の関心を考慮して選んだ『言繼卿記』を、前期に引き続き、読み進めていく。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 自身の担当部分以外についても、自分なりに訓読・解釈をほどこした上で、授業に臨む。</p> <p>[授業計画] 1. ガイダンス 2. 史料講読(1) 3. 史料講読(2) 4. 史料講読(3) 5. 史料講読(4) 6. 史料講読(5) 7. 史料講読(6) 8. 史料講読(7) 9. 史料講読(8) 10. 史料講読(9) 11. 史料講読(10) 12. 史料講読(11) 13. まとめ</p> <p>[成績評価方法] 報告内容80%、討論への参加20%</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

科目名	日本史学演習Ⅲb	後期	2 単位
サブタイトル	近世史料の読解		
担当者	尾崎 真理		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 以下の2点を到達目標とする。①基本的な近世史料を正確かつ厳密に読解する能力を身につける、②近世史料から、近世の国家・社会の特質を把握する能力を身につける。			
[授業概要] 江戸幕府が出した法令を、法令発布者の意図および当時の社会状況に留意しつつ厳密に読んでいく。授業は、受講生による発表という形式で行う。報告担当者は、自身が割り当てられた法令について、①読み下し文、②他の文献に収録された同一法令との文言の異同、③語句の意味、④現代語訳、⑤法令発布の背景と結果、を記したレジュメを用意し、①～⑤の順に報告を行う。授業では、①～⑤の各段階ごとに、授業参加者全員で議論する。報告担当者以外の受講生も、事前に①③④について準備をしておき、授業に臨む。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 報告者は事前にレジュメを作成する。他の受講生も、取り上げる予定の法令に関して、上記「授業概要」に記した①③④については必ず事前に準備をしておかねばならない。			
[授業計画] 1. 授業の進め方 2. 江戸幕府法令の読解1 3. 江戸幕府法令の読解2 4. 江戸幕府法令の読解3 5. 江戸幕府法令の読解4 6. 江戸幕府法令の読解5 7. 江戸幕府法令の読解6 8.江戸幕府法令の読解7 9.江戸幕府法令の読解8 10. 江戸幕府法令の読解9 11. 江戸幕府法令の読解10 12. 江戸幕府法令の読解11 13. 江戸幕府法令の読解12			
[成績評価方法] 演習中に判断される古文書読解整理能力20%、期末試験80%			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書 (ISBN)]			
[参考書 (ISBN)]			

科目名	日本史学演習Ⅳa	前期	2 単位
サブタイトル	日本近現代史の研究動向		
担当者	松下 孝昭		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 日本近現代史に関する各自の問題関心を披瀝した上で、それに関連する研究書や専門論文を選定して全員で輪読し、討論する。その中から各自の課題意識を明確にし、具体的な実証研究の発表をおこない、質疑応答を繰り返していく。日本近現代史に関する学術論文の作成にあたっては、既存の研究を正確に整理するとともに、それを批判的に捉え、自分のオリジナルな説を提唱することが求められるだけに、そうした議論の立て方を重点的に指導していく。</p> <p>[授業概要] 研究書や専門論文の輪読が中心となる。発表者は毎回レジュメを用意し、論点や疑問点を整理する。それに沿って他の参加者と質疑応答を重ね、日本近現代史に関する論点を深めてゆく。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] まずは日本近現代史に深い関心を持つことが必要である。次いで、日本近現代史に関する論文・専門書を効率よく検索する方法を身につけ、積極的に図書館等でコピーを入手する姿勢が求められる。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各自の問題関心の披瀝 2. 日本近現代史研究の動向(講義) 3. 専門書・論文の輪読(1) 4. 専門書・論文の輪読(2) 5. 専門書・論文の輪読(3) 6. 専門書・論文の輪読(4) 7. 専門書・論文の輪読(5) 8. 中間的な論点整理 9. 専門書・論文の輪読(6) 10. 専門書・論文の輪読(7) 11. 専門書・論文の輪読(8) 12. 専門書・論文の輪読(9) 13. まとめ <p>[成績評価方法] 受講状況と、発表内容・質疑応答の状況等を総合して評価する。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

科目名	日本史学演習Ⅳb	後期	2 単位
サブタイトル	日本近現代史をめぐる最新の研究動向		
担当者	松下 孝昭		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 日本近現代史に関する各自の問題関心を披瀝してもらい、それに関連する研究書や専門論文を選定して全員で輪読し、討論する。その中から各自の課題意識を明確にし、具体的な実証研究の発表をおこない、質疑応答を繰り返していく。あわせて、日本近現代史に関する学術論文の作成に向けた方向づけをおこなう。</p> <p>[授業概要] 当初は、日本近現代史に関する研究書や専門論文の輪読を中心とする。発表者は毎回レジュメを用意して論点や疑問点を整理し、その後の質疑応答にのぞむ。後半は、各自の課題意識に沿った研究発表を中心とし、演習形式での授業を継続する。その際には、作成中の論文の内容に関する発表も織り込むことにする。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 日本近現代史に関する高度に学術的な研究の把握につとめるので、問題関心を豊富に有していることが前提となる。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 受講者の問題関心の披瀝 2. 今後の研究指針の見定め 3. 専門書・論文の輪読(1) 4. 専門書・論文の輪読(2) 5. 専門書・論文の輪読(3) 6. 専門書・論文の輪読(4) 7. 専門書・論文の輪読(5) 8. 中間的な論点整理 9. 各自の研究発表(1) 10. 各自の研究発表(2) 11. 各自の研究発表(3) 12. 各自の研究発表(4) 13. まとめの質疑応答 <p>[成績評価方法] 受講状況と発表内容を総合して評価する。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

科目名	日本史学演習Va	前期	2単位
サブタイトル			
担当者	齋藤 瑞穂		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 考古学論文の手続きを習得し、自身の研究テーマを深める。また、他者の発表から気づきを得、一方では他者の研究をより高いステージに導く「議論の場」を作り出すことに体を慣らす。			
[授業概要] 自らのテーマについて、研究計画を設計し、論文のプロットを策定する。演習Vaは基盤づくりに主眼を置き、適切な目的の設定および資料・方法の選択までをめざしたい。 前半はまず取り扱う時代の全体像を把握し、自身の研究の位置づけを明確にするところから始める。次いで、先行研究を整理し、現在の到達点を把握する。これらについて発表し、討論を通じて自身の課題を研ぎ澄ませつつ、積極的に資料調査に向いてもらおうと思う。 後半はその資料調査の成果を、自らの仮説や着眼点とともに報告する。それらをふまえ、あらためて研究の目的・方法を策定し、それに即して研究史をまとめる。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 発表者はレジュメを作成すること。自身の取り扱うテーマの資料を調査し、実測図や調書を作成すること。			
[授業計画] 1. ガイダンス 2. 受講者のテーマに関する発表 3. 時代像の把握(1) 4. 時代像の把握(2) 5. 遺跡／博物館の見学 6. 遺跡／博物館の見学 7. 先行学説の検討(1) 8. 先行学説の検討(2) 9. 資料調査報告(1) 10. 研究の到達点と課題の整理 11. 資料調査報告(2) 12. 先行論文の検討(3) 13. 研究目的・方法の策定			
[成績評価方法] 口頭発表の内容(40%)、討論への積極性(30%)、レポートの内容(30%)で評価する			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)]			
[参考書(ISBN)]			

科目名	日本史学演習 Vb	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	齋藤 瑞穂		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 考古学論文の手続きを習得し、自身の研究テーマを深める。また、他者の発表から気づきを得、一方では他者の研究をより高いステージに導く「議論の場」を作り出すことに体を慣らす。			
[授業概要] それぞれのテーマの深化・前進を目標とする。この演習Vbを、演習Vaで作られた骨組みを肉付けする場と位置づけ、討論しながら「資料の分析」と「結果の読み解き」を進める。また、「考古学的事実に立脚した歴史叙述」についても討論を重ね、説得力をそなえた研究になるようサポートしたい。 初回は、資料の集成結果を、夏の資料調査の成果とともに報告する。次いで、資料分析という観点から参考になる論文各2篇ずつを報告し、その長短所を玩味したうえで自身の分析を進めていく。 後半では、前半で得た事実をまずは文章化し、既往学説との共通点・相違点を整理する。あわせて、演習Vaの冒頭で発表した時代像を再報告し、自らの作業がどの部分を切り拓いたかなど、成果を位置づけてもらいたい。それから諸作業の後、事実立脚した考察を冷静に進め、結論を導く。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 発表者はレジュメを作成すること。自身の取り扱うテーマの資料を調査し、実測図や調書を作成すること。			
[授業計画] 1. 資料の状況および夏の資料調査の報告 2. 参考論文の検討(1) 3. 参考論文の検討(2) 4. 資料の分析(1) 5. 論文の書き方(齋藤) 6. 資料の分析(2) 7. 資料の分析(3) 8. 事実の整理と既往学説の再整理 9. 時代像の整理(再報告) 10. 考察(1) 11. 考察(2) 12. 説得力アップの一手間(1) 13. 説得力アップの一手間(2)			
[成績評価方法] 口頭発表の内容(50%)、討論への積極性(50%)を評価する。			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)]			
[参考書(ISBN)]			

科目名	日本史学特論 I a	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	山内 晋次		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 近年の日本史学界においてとくに大きく進展している、前近代の国際交流史研究の現状および問題点・課題などを理解する。</p> <p>[授業概要] 前近代の国際交流史に関する重要な論著を、輪番で報告を担当しながら読み進めていく。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 授業時に配布する資料や紹介する参考文献に事前に目を通したうえで授業に出席する。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 研究史の概要(1) 3. 研究史の概要(2) 4. 研究史の概要(3) 5. 研究史の概要(4) 6. 論著購読(1) 7. 論著購読(2) 8. 論著購読(3) 9. 論著購読(4) 10. 論著購読(5) 11. 論著購読(6) 12. 論著購読(7) 13. まとめ <p>[成績評価方法] 報告内容80%、受講態度20%</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

科目名	日本史学特論 I b	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	山内 晋次		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 近年日本史学界においても大きく進展している「海域史」研究の現状および問題点・課題などを理解する。</p> <p>[授業概要] 近年の「海域史」研究における諸成果について講義し、あわせて今後の課題なども提示する。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 授業時に配布するレジュメや紹介する参考文献に事前に目を通したうえで授業に出席する。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 海域史研究の諸成果(1) 3. 海域史研究の諸成果(2) 4. 海域史研究の諸成果(3) 5. 海域史研究の諸成果(4) 6. 海域史研究の諸成果(5) 7. 海域史研究の諸成果(6) 8. 海域史研究の諸成果(7) 9. 海域史研究の諸成果(8) 10. 海域史研究の諸成果(9) 11. 海域史研究の諸成果(10) 12. 海域史研究の諸成果(11) 13. まとめ <p>[成績評価方法] 受講態度20%、質疑応答80%</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書 (ISBN)]</p> <p>[参考書 (ISBN)]</p>			

科目名	日本史学特論Ⅱa	前期	2単位
サブタイトル	日本中世史・海域アジア史研究の現状と課題		
担当者	関 周一		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 日本中世史や海域アジア史研究の現状と課題を理解する。</p> <p>[授業概要] 日本中世史や海域アジア史に関する重要な論著を読み進めていく。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 授業時に配布する資料や紹介する参考文献に事前に目を通したうえで授業に出席する。</p> <p>[授業計画] 1. ガイダンス 2. 中世対外関係史の研究史(1) 3. 中世対外関係史の研究史(2) 4. 受講生の関心のある分野の研究史(1) 5. 受講生の関心のある分野の研究史(2) 6. 論著講読(1) 7. 論著講読(2) 8. 論著講読(3) 9. 論著講読(4) 10. 論著講読(5) 11. 論著講読(6) 12. 論著講読(7) 13. まとめ</p> <p>[成績評価方法] 報告内容80%、討論への参加20%</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

科目名	日本史学特論Ⅱb	後期	2 単位
サブタイトル	日本中世史・海域アジア史研究の現状と課題		
担当者	関 周一		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 日本中世史や海域アジア史研究の現状と課題を理解する。</p> <p>[授業概要] 日本中世史や海域アジア史に関する重要な論著を読み進めていく。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 授業時に配布する資料や紹介する参考文献に事前に目を通したうえで授業に出席する。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 海域アジア史研究の現状(1) 3. 海域アジア史研究の現状(2) 4. 受講生の関心のある分野の研究の現状(1) 5. 受講生の関心のある分野の研究の現状(2) 6. 論著講読(1) 7. 論著講読(2) 8. 論著講読(3) 9. 論著講読(4) 10. 論著講読(5) 11. 論著講読(6) 12. 論著講読(7) 13. まとめ <p>[成績評価方法] 報告内容80%、討論への参加20%</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

科目名	日本史学特論Ⅲa	前期	2 単位
サブタイトル	近世の所領配置と幕領支配		
担当者	尾崎 真理		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 本講義では、①近世期における所領配置の構造を理解する、②それを通して新たな近世支配論の方法を理解する、の2点を到達目標とする。			
[授業概要] 江戸幕府は、全国に約400万石の直轄領(幕領)をもつ最大の個別領主であるとともに、統一権力として個別領主を編成し、公的支配を司る国家機関として法の制定、刑事・民事の裁判、治安警察、民政一般などの統治機能を有した。本講義では、近世中後期における江戸幕府の所領配置のメカニズムを、特に幕領配置政策との関連から明らかにする。なお、幕領配置とは、①幕府が幕領をいかに配置していたのかという意味にとどまらず、②幕領内において代官管轄地域や大名預所をどのように配置していたか(代官配置)という意をも包含する。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 随時、近世の所領配置や幕領支配に関する文献や近世民衆の広域訴願運動について書かれた文献を紹介するので、それを読んでおくこと。			
[授業計画] 1課題と方法(ガイダンスも含む) 2近世期における所領配置論1 3近世期における所領配置論2 4近世期における所領配置論3 5近世期における所領配置論4 6近世期における所領配置論5 7近世期における所領配置論6 8近世期における所領配置論7 9近世期における所領配置論8 10近世期における所領配置論9 11近世期における所領配置論10 12近世期における所領配置論11 13まとめ			
[成績評価方法] レポートによる。			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)]			
[参考書(ISBN)]			

科目名	日本史学特論Ⅲb	後期	2 単位
サブタイトル	近世における備荒貯蓄と地域社会		
担当者	尾崎 真理		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 本講義では、近世における地域社会の運営のあり方を、その展開過程もふくめて理解することを到達目標とする。</p> <p>[授業概要] 本講義では、近世期における災害対策として、備荒貯蓄(郷村貯蓄)政策を事例に挙げながら、近世社会の地域運営能力とその展開を明らかにする。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 随時、近世支配に関する必読文献を紹介するので、それを読んでおくこと。</p> <p>[授業計画] 1.講義のねらい 2.近世地域社会論1 3.近世地域社会論2 4.近世における備荒貯蓄政策の展開1 5.近世における備荒貯蓄政策の展開2 6.近世における備荒貯蓄政策の展開3 7.近世における備荒貯蓄政策の展開4 8.近世における備荒貯蓄政策の展開5 9.近世における備荒貯蓄政策の展開6 10.近世における備荒貯蓄政策の展開7 11.近世における備荒貯蓄政策の展開8 12.近世における備荒貯蓄政策の展開9 13.授業のまとめ</p> <p>[成績評価方法] レポートによる。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

科目名	日本史学特論Ⅳa	前期	2 単位
サブタイトル	近現代日本の軍隊と都市地域社会		
担当者	松下 孝昭		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 近年日本史学界において盛んになりつつある軍隊と地域社会との関わりについて、主として明治期を中心に、軍隊の誘致によって都市形成を図ろうとしたいくつかの都市について考察を加え、近代日本の特質に迫る講義を行う。論拠となる史料の読解を中心に据えて、史料を基にした実証の能力が養成されることを目標とする。			
[授業概要] 軍隊と地域社会との関わりについて、旭川・弘前・豊橋・高田など典型的な「軍都」の事例を検討しつつ、そこでの都市形成と市民のありかたについて考えていく。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 国立公文書館・アジア歴史資料センターなど近現代史料の原本を閲覧できるサイトが増えているので、各自で頻繁にアクセスする姿勢が求められる。			
[授業計画] 1. 日本近現代史における軍隊をめぐる研究動向 2. 近代史料の特質と所在 3. 近代史料の解読の実際 4. 明治期の軍隊と地域社会 5. 軍隊と地域社会に関する史料Ⅰ 6. 軍隊と地域社会に関する史料Ⅱ 7. 日清戦争と地域社会 8. 日清戦後の軍隊誘致運動に関する史料Ⅰ 9. 日清戦後の軍隊誘致運動に関する史料Ⅱ 10. 日露戦争と地域社会 11. 日露戦後の軍隊誘致運動に関する史料Ⅰ 12. 日露戦後の軍隊誘致運動に関する史料Ⅱ 13. 全体のまとめ			
[成績評価方法] 受講状況と史料読解能力の向上を見定め、最終的には試験によって評価する。			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)]			
[参考書(ISBN)]			

科目名	日本史学特論IVb	後期	2 単位
サブタイトル	近代日本における軍隊と都市地域社会		
担当者	松下 孝昭		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 前期と同じく、軍隊の立地がもたらす地域社会への影響について、史料の読解を含めながら講義する。史料をもとに論証を積み重ね、自己の論理を固めていくという研究姿勢が伝わるのがこの講義の目標である。			
[授業概要] 前期に続き、軍隊が立地した都市における市民の意識や都市形成の特質を講じる。後期は特に都市の形成の側面に焦点をあて、軍隊が立地したことで、鉄道・道路・水道・商店・遊廓といった都市インフラの構築がいかに進んだかを考察する。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 日本近現代史の史料に親しみ、積極的に活用して論証しようとする姿勢を持つておくことが重要である。			
[授業計画] 1. 都市と軍隊をめぐる研究動向 2. 都市史研究の実際 3. 近代史料の特質と所在 4. 軍隊の立地と鉄道(1) 5. 軍隊の立地と鉄道(2) 6. 都市インフラとしての水道 7. 軍用水道の敷設 8. 軍隊の立地と水道 9. 中間的なまとめ 10. 営門前の商店街の繁栄 11. 軍隊の御用商人 12. 軍隊の立地と遊廓 13. 総括的なまとめ			
[成績評価方法] 受講状況と理解力の向上を見定め、うえ、論述式の試験を実施して評価する。			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書 (ISBN)]			
[参考書 (ISBN)]			

科目名	日本史学特論Va	前期	2単位
サブタイトル	考古学からみた日本・日本人論		
担当者	齋藤 瑞穂		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標]			
①多様な史資料を駆使して過去を復原する方法を理解する。			
②考古資料から析出された人間集団がどのようなものかを、自らの考えで説明することができる。			
[授業概要]			
モノを研究の対象とする考古学では、「どのように作られたか」と「どのように出土したか」を精確に把握したうえで、「なぜそのように作られたのか」、「なぜそこで(それと)出たのか」へと思索を進めて歴史を叙述する。			
この講義では、日本と日本人といった点に焦点をあてる。「日本」とはどこを指すのか、いつその領域が形成されたのか、この問題を考えていくのが本講義である。			
また、この日本列島に生きた人々についても考察を深めていく。「日本人」とは誰なのか？本講義ではこうした難度の高いエスニシティの問題を、皆さんと一緒に考えてみたい。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)]			
講義でとりあげる葬送関係資料や祭祀遺物について、事前に博物館・史料館、埋蔵文化財センター、教育委員会などで見学し、あらためて実物をよく観察してほしい。自身の主題と関係する資料については、実測等の調査を積極的に行い、自分なりの考えを作るとよい。			
[授業計画]			
1. ガイダンス+リアクションペーパーの書き方			
2. 大日本帝国期の日本考古学			
3. 日本列島形成以前			
4. 縄文土器・弥生土器の分布限界			
5. 渡来人論①—人類学の成果から—			
6. 渡来人論②—考古学の立場から—			
7. 森林性新石器文化論			
8. 動物飼養をしない日本の農業			
9. 続縄文文化と貝塚後期文化			
10. 列島の東と西			
11. 災害文化論			
12. 考古学とエスニシティ			
13. まとめ			
[成績評価方法]			
リアクションペーパー(100%)			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)]			
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)]			
[参考書(ISBN)]			

科目名	日本史学特論Ⅴb	後期	2 単位
サブタイトル	考古学の方法と叙述の前提を考える		
担当者	齋藤 瑞穂		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 考古学の概念・方法の前提を咀嚼し、説明できる。 歴史学としての考古学が重視してきた転換点について、その理論的前提を説明できる。			
[授業概要] 考古学の研究対象がモノ資料であるとしても、モノ資料の変遷史を描くこと—どのような形からスタートして今に到ったのか？—が研究の最終目的ではもちろんない。モノ資料には作った人、運んだ人、使った人、捨てた人がいるはずで、考古学の目的はそれら過去の人々が辿った道を解明することにある。個別具体的な事実を総合し、あるいは因果関係を読み解くなどしてこの作業を進めることを、「歴史を叙述する」という。しかし歴史は、無限の事実を漫然と寄せ集めれば再構成できるわけでない。特にどの点をとりあげるべきか、何に結び付けることができるか、何を基準にするか等の前提・学説・理論がそこにある。 本講義では、これまでの歴史学者・考古学者たちが考え抜き、我々に残してくれたこの部分の解説を試みる。もちろん前提・学説・理論も不変のものでなく、様々な影響を受けて変容してきた。この講義は、社会情勢がどのように影響したかなどをあわせて論じていきたいと思う。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 授業計画に掲げた主題はどのように説明されてきただろうか。また、そこにはどのような理由が述べられているだろうか。いくつかの概説書を紐解いてこれらの点に注目し、見比べてみてほしい。自身のテーマ・時代と関係する主題については、議論の経過を整理し、自分の理解をまとめておくこと。			
[授業計画] 1. ガイダンス 2. 考古資料論 3. 考古学成立の背景(1) 4. 考古学成立の背景(2) 5. 層位論 6. 型式学 7. 考古学調査の実際 8. 生業論 9. 交易・交換論 10. 社会考古学 11. こころの考古学 12. 考古学は誰のためにあるのか、歴史は誰のものか？ 13. まとめ			
[成績評価方法] リアクションペーパー(100%)			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)]			
[参考書(ISBN)]			

科目名	日本民俗学演習a	前期	2 単位
サブタイトル	現代民俗学の方法と実践 (1)		
担当者	川森 博司		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 現代民俗学の方法論と事例研究を扱った論文を精読することにより、自分自身の方法論を確立していくことを目標とする。			
[授業概要] 現代日本の民俗事象を捉えるための方法論を模索した論文群を講読する。狭い意味での民俗学の領域にとどまらず、文化人類学や社会学の領域にまで視野を広げ、現状を打破して新たな研究方法を開くための道筋を模索したい。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 配付論文の予習・復習をすること。			
[授業計画]			
1. 導入			
2. 「民俗調査」の認識論			
3. ノスタルジアと伝統文化の再構成			
4. ふるさとイメージをめぐる実践			
5. 現地の人々の声			
6. オリエンタリズム批判と文化人類学			
7. 言説としての人類学			
8. 人類学とサバルタンの主体的関与			
9. 文化の客体化			
10. 現代日本における観光と地域社会			
11. 伝統、本物か、にせ物か			
12. ポストモダン人類学の再検討			
13. まとめ			
[成績評価方法] 授業における学習態度(70%)および課題レポート(30%)によって評価する。			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)]			
[参考書(ISBN)]			

科目名	日本民俗学演習b	後期	2 単位
サブタイトル	現代民俗学の方法と実践 (2)		
担当者	川森 博司		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 現代民俗学の方法論と事例研究を扱った論文を精読することにより、自分自身の方法論を確立していくことを目標とする。			
[授業概要] 現代日本の民俗事象を捉えるための方法論を模索した論文群を講読する。狭い意味での民俗学の領域にとどまらず、文化人類学や社会学の領域にまで視野を広げ、現状を打破して新たな研究方法を開くための道筋を模索したい。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 配付論文の予習・復習をすること。			
[授業計画] 1. 導入 2. 中央と地方の入り組んだ関係 3. 「土着コスモポリタニズム」の可能性 4. 有機的知識人への道 5. 宮本常一の民俗学 6. 旅の経験と民俗学の構想 7. 宮本常一の民俗誌 8. 民俗学と地域振興 9. 観光と民俗芸能 10. 記憶から声へ 11. 当事者の声と民俗誌 12. 現代民俗誌への模索と課題 13. まとめ			
[成績評価方法] 授業における学習態度(70%)および課題レポート(30%)によって評価する。			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)]			
[参考書(ISBN)]			

科目名	日本民俗学特論a	前期	2 単位
サブタイトル	民俗学の理論と研究方法 (1)		
担当者	川森 博司		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 民俗学の理論の系譜を理解し、具体的な事例に即した研究方法を身につける。			
[授業概要] 民俗学は一般の生活者である民衆の文化の総合的な理解を目指す学問であり、これまでにさまざまな考察がおこなわれてきた。この授業では、これまでの研究の中から現在の研究にも有効な理論の枠組みを検討する作業をおこないながら、さまざまな具体例に即してどのような研究方法が有効かを考察していく。 「構造分析」「フィールドワーク」「観光文化」「近代化」「地方と中央」などが講義におけるキーワードとなる。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 事前に配付する資料にもとづいて予習・復習をすること。			
[授業計画] 1. 研究方法の変遷と時代背景 2. 昔話の構造分析(1) 3. 昔話の構造分析(2) 4. フィールドワーク論(1) 5. フィールドワーク論(2) 6. 観光文化論(1) 7. 観光文化論(2) 8. 近代化論(1) 9. 近代化論(2) 10. 地方と中央(1) 11. 地方と中央(2) 12. 有機的知識人論 13. まとめ			
[成績評価方法] 授業における学習態度(50%)および筆記試験(50%)によって評価する。			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)]			
[参考書(ISBN)]			

科目名	日本民俗学特論b	後期	2 単位
サブタイトル	民俗学の理論と研究方法(2)		
担当者	川森 博司		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 民俗学の理論の系譜を理解し、具体的な事例に即した研究方法を身につける。			
[授業概要] 民俗学は一般の生活者である民衆の文化の総合的な理解を旨とする学問であり、これまでにさまざまな考察がおこなわれてきた。この授業では、これまでの研究の中から現在の研究にも有効な理論の枠組みを検討する作業をおこないながら、さまざまな具体例に即してどのような研究方法が有効かを考察していく。 具体的な内容としては、遠野のフィールドワークにもとづく事例とその分析、宮本常一の民俗学の可能性と限界、観光と地域社会といったテーマをめぐって、研究の焦点がどこに当てていくべきかを検討を進める。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 教科書にもとづいて予習・復習をすること。			
[授業計画] 1. 現代社会と伝承文化 2. 民俗文化の自己表現と解釈(1) 3. 民俗文化の自己表現と解釈(2) 4. 宮本常一の民俗学(1) 5. 宮本常一の民俗学(2) 6. 伝統文化と観光(1) 7. 伝統文化と観光(2) 8. 公共民俗学(1) 9. 公共民俗学(2) 11. 現代民俗誌と現地の声(1) 12. 現代民俗誌と現地の声(2) 13. まとめ			
[成績評価方法] 授業における学習態度(50%)および筆記試験(50%)によって評価する。			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)]			
[参考書(ISBN)]			

科目名	論文指導演習a(日本史学)	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	川森 博司		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 学位論文の作成</p> <p>[授業概要] 学位論文を作成するために、演習、研究、調査を中心とした研究指導を行う。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 学位論文の作成に向けて、自発的に資料収集を行い目指すべき課題に向けての用意を整えておくこと。</p> <p>[授業計画] 学位論文の作成進度に合わせ、13回の授業計画を立てる。</p> <p>[成績評価方法] 総合評価による。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

科目名	論文指導演習a(日本史学)	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	鈴木 宏節		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 学位論文の作成</p> <p>[授業概要] 学位論文を作成するために、演習、研究、調査を中心とした研究指導を行う。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 学位論文の作成に向けて自発的に史資料の収集を行い、目指すべき課題の解決に向けて準備を整えておくこと。</p> <p>[授業計画] 学位論文の作成進度に合わせて13回の授業計画を立てる。</p> <p>[成績評価方法] 総合評価による。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

科目名	論文指導演習a(日本史学)	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	齋藤 瑞穂		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 学位論文の作成</p> <p>[授業概要] 学位論文を作成するために、演習、研究、調査を中心とした研究指導を行う。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 学位論文の作成に向けて、自発的に資料収集を行い目指すべき課題に向けての用意を整えておくこと。</p> <p>[授業計画] 学位論文の作成進度に合わせ、13回の授業計画を立てる。</p> <p>[成績評価方法] 総合評価による。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

科目名	論文指導演習a(日本史学)	前期	2 単位
サブタイトル	論文作成に向けて		
担当者	松下 孝昭		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 学位論文の作成</p> <p>[授業概要] 学位論文を作成するために、演習、研究、調査を中心とした研究指導を行う。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 学位論文の作成に向けて、自発的に資料収集を行い目指すべき課題に向けての用意を整えておくこと。</p> <p>[授業計画] 学位論文の作成進度に合わせ、13回の授業計画を立てる。</p> <p>[成績評価方法] 総合評価による。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

科目名	論文指導演習a(日本史学)	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	山内 晋次		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 学位論文の作成</p> <p>[授業概要] 学位論文を作成するために、演習を中心とした研究指導をおこなう。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 学位論文の作成に向けて、主体的に資料収集を行い目指すべき課題に向けての用意を整えておく。</p> <p>[授業計画] 各自の学位論文の作成進捗を考慮しながら、相談のうえで13回の授業計画を立てる。</p> <p>[成績評価方法] 論文の進展度・内容および受講態度を総合して評価する。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

科目名	論文指導演習a(日本史学)	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	吉村 真美		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 学位論文の作成</p> <p>[授業概要] 学位論文を作成するために、演習、研究、調査を中心とした研究指導を行う。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 学位論文の作成に向けて、自発的に資料収集を行い目指すべき課題に向けての用意を整えておくこと。</p> <p>[授業計画] 学位論文の作成進度に合わせ、13回の授業計画を立てる。</p> <p>[成績評価方法] 総合評価による。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

科目名	論文指導演習a(日本史学)	前期	2 単位
サブタイトル	論文作成に向けて		
担当者	関 周一		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 学位論文の作成</p> <p>[授業概要] 学位論文を作成するために、演習、研究、調査を中心とした研究指導を行う。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 学位論文の作成に向けて、自発的に資料収集を行い目指すべき課題に向けての用意を整えておくこと。</p> <p>[授業計画] 学位論文の作成進度に合わせ、13回の授業計画を立てる。</p> <p>[成績評価方法] 総合評価による。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

科目名	論文指導演習a(日本史学)	前期	2 単位
サブタイトル	修士論文の作成を目指して		
担当者	尾崎 真理		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 修士論文の作成</p> <p>[授業概要] 修士論文の作成を目指し、受講生各自のテーマに関連する論文や史料の講読と、テーマについての研究報告を適宜組み合わせた研究指導を行う。授業計画は、受講生それぞれの研究の進捗状況に応じ、柔軟に立てる。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 修士論文の作成に向け、論文テーマに関わる研究史の整理や史料収集を行っておくこと。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の進め方 2. 受講生による報告1 3. 受講生による報告2 4. 受講生による報告3 5. 受講生による報告4 6. 受講生による報告5 7. 受講生による報告6 8. 受講生による報告7 9. 受講生による報告8 10. 受講生による報告9 11. 受講生による報告10 12. 受講生による報告11 13. 受講生による報告12 <p>[成績評価方法] 総合評価による。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

科目名	論文指導演習b(日本史学)	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	川森 博司		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 学位論文の作成</p> <p>[授業概要] 学位論文を作成するために、演習、研究、調査を中心とした研究指導を行う。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 学位論文の作成に向けて、自発的に資料収集を行い目指すべき課題に向けての用意を整えておくこと。</p> <p>[授業計画] 学位論文の作成進度に合わせ、13回の授業計画を立てる。</p> <p>[成績評価方法] 総合評価による。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

科目名	論文指導演習b(日本史学)	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	鈴木 宏節		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 学位論文の作成</p> <p>[授業概要] 学位論文を作成するために、演習、研究、調査を中心とした研究指導を行う。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 学位論文の作成に向け史資料収集を行い、史料批判の準備をしておくこと。</p> <p>[授業計画] 学位論文の作成進度に合わせ、13回の授業計画を立てる。</p> <p>[成績評価方法] 演習の準備や提出物など総合評価による。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

科目名	論文指導演習b(日本史学)	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	齋藤 瑞穂		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 学位論文の作成</p> <p>[授業概要] 学位論文を作成するために、演習、研究、調査を中心とした研究指導を行う。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 学位論文の作成に向けて、自発的に資料収集を行い目指すべき課題に向けての用意を整えておくこと。</p> <p>[授業計画] 学位論文の作成進度に合わせ、13回の授業計画を立てる。</p> <p>[成績評価方法] 総合評価による。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

科目名	論文指導演習b(日本史学)	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	松下 孝昭		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 学位論文の作成</p> <p>[授業概要] 学位論文を作成するために、演習、研究、調査を中心とした研究指導を行う。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 学位論文の作成に向けて、自発的に資料収集を行い目指すべき課題に向けての用意を整えておくこと。</p> <p>[授業計画] 学位論文の作成進度に合わせ、13回の授業計画を立てる。</p> <p>[成績評価方法] 総合評価による。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

科目名	論文指導演習b(日本史学)	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	山内 晋次		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 学位論文の作成</p> <p>[授業概要] 学位論文を作成するために、演習を中心とした研究指導をおこなう。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 学位論文の作成に向けて、自発的に資料収集を行い目指すべき課題に向けての用意を整えておく。</p> <p>[授業計画] 各自の学位論文の作成進捗を考慮しながら、13回の授業計画を立てる。</p> <p>[成績評価方法] 完成した論文の内容および受講態度を総合して評価する。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

科目名	論文指導演習b(日本史学)	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	吉村 真美		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 学位論文の作成</p> <p>[授業概要] 学位論文を作成するために、演習、研究、調査を中心とした研究指導を行う。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 学位論文の作成に向けて、自発的に資料収集を行い目指すべき課題に向けての用意を整えておくこと。</p> <p>[授業計画] 学位論文の作成進度に合わせ、13回の授業計画を立てる。</p> <p>[成績評価方法] 総合評価による。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

科目名	論文指導演習b(日本史学)	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	関 周一		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 学位論文の作成</p> <p>[授業概要] 学位論文を作成するために、演習、研究、調査を中心とした研究指導を行う。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 学位論文の作成に向けて、自発的に資料収集を行い目指すべき課題に向けての用意を整えておくこと。</p> <p>[授業計画] 学位論文の作成進度に合わせ、13回の授業計画を立てる。</p> <p>[成績評価方法] 総合評価による。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

科目名	論文指導演習b(日本史学)	後期	2 単位
サブタイトル	修士論文の作成を目指して		
担当者	尾崎 真理		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 修士論文の作成</p> <p>[授業概要] 修士論文の作成を目指し、受講生各自のテーマに関連する論文や史料の講読と、テーマについての研究報告を適宜組み合わせた研究指導を行う。授業計画は、受講生それぞれの研究の進捗状況に応じ、柔軟に立てる。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 修士論文の作成に向け、論文テーマに関わる研究史の整理や史料収集を行っておくこと。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 受講生による報告1 2. 受講生による報告2 3. 受講生による報告3 4. 受講生による報告4 5. 受講生による報告5 6. 受講生による報告6 7. 受講生による報告7 8. 受講生による報告8 9. 受講生による報告9 10. 受講生による報告10 11. 受講生による報告11 12. 受講生による報告12 13. 受講生による報告13 <p>[成績評価方法] 総合評価による。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			